

青美会趣意書 (抜粋)

青美会は、絵画制作を純粋な芸術活動としてとらえ、制作を通して自己に迫る生涯の活動として考え、展覧会を永続的に開催していただける人々で構成される組織である。
出品者は、時代を追わず、通俗的表現を目的としない、亜流をつくらない、といった制作態度が希求される。友達仲間感覚を超えた、目的意識をもった出品者で構成される。

■青美会のあゆみ

- 1995年(平成7年) 青美会創立。
1996年(平成8年) 「第1回・青美展」を稲沢市荻須記念美術館にて開催(以後7回展まで毎年開催)。
2003年(平成15年) 「第8回・青美展」より東桜会館ギャラリーにて開催(以後毎年開催)。
2004年(平成16年) 同人制を運営開始。
2009年(平成21年) 「青美会同人展2009」開催(愛知美術館ギャラリー)。
2010年(平成22年) 会報・第1号を発行(以後毎年発行)
2011年(平成23年) 「青美会同人展2011」開催(愛知美術館ギャラリー)。
2012年(平成24年) 「青美会同人展2012」開催(愛知美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
2014年(平成26年) 「青美会同人展2014」開催(愛知美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
2015年(平成27年) 「第20回記念展」開催(東桜会館ギャラリー)。青美会・ロゴマーク制定。
2015年(平成27年) 「青美会同人展2015」開催(愛知美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
2017年(平成29年) 「青美会同人展2017」開催(愛知美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
2019年(平成31年) 「第24回・青美展」開催(東桜会館ギャラリー)・・・名古屋芸術文化団体活動助成事業として。

●テーマ「絵を描く喜び・見る喜び」各人の絵に対する想いを語って頂きました。

「絵を描く喜び」中村 欽司 (水彩技法)



「工場群」(F10)

絵を描く喜びをテーマに与えられ当惑しました。
天賦の才に恵まれた人だけが喜びを感じ乍ら絵を描けるのであり、凡人には描くことは苦勞の連続で喜びとは程遠いものだからです。しかしそれでは何故十九年間も下手な絵を続けているのか説明が付きません。
改めて考えてみるに絵を描くことは言葉では表現出来ない何かがある為ではないか。
そして、その何かとは悪戦苦闘の中に実は喜びが潜んでおり無意識にそれを感取っているのでもないかとの思いに到りました。その潜在している喜びは仕上げた絵を通じ、時として絵の不思議な世界の一端に触れ頭を化意識化し、これが絵を描く喜びとして理解されるのでしょうか。
絵を描き始める前には無関心であった美術番組や美術展に楽しく接しているのも、絵を描くことで得られた喜びといえるのでしょう。真の絵の世界に触れる喜びを期してお粗末ながら悪戦苦闘して絵を描き続ける事とします。

「絵を描いてきた喜び」原田 弘 (フリー)



「景」(F15)

ふとしたきっかけで始めた絵画の世界。豊かな実りのある人生になっている。
スケッチの会、スケッチ旅行。そして作品の発表会等々、世代を超えた仲間達との交流は若さを保っておられる秘訣かも・・・友人の言葉。
そして、東京で開催した仲間達との作品展は旅仲間や旧知の友人との再会を果し、交流を深めたばかりか、作品が画集にも掲載され、我が人生に記念碑を残すことが出来たことは望外の喜びである。

「描く事」のよここび 平野 珠美子 (風景B)



「好きな一隅」(F8)

初めて「第5回青美展」に出品させて頂いた絵を図録で久々に眺めて、一生懸命に描いた若かりし頃の自分を懐かしく思い出しました。二十余年前の事です。
もともと対象に拘る写実主義の私には、心の思いを抒情豊かに絵に託す事は苦手でした。
先生の熱心な御説明を伺っていても、鈍な頭がその方へ絵筆を運ばせてくれませんでした。
「青美展」に出される皆さまの絵を見せて頂いて、どうしてこんなに、のびのびと色のハーモニーに詩情を託して描けるのかしら・・・といつも羨ましく思っています。先生のお導きを確りと把握されて描いておられる皆さまが眩しいです。いつも半ば、あきらめの気持ちで描いている私を見つめて、二十年来の旅人が「珠美ちゃんの絵を堂々と描けば良いのよ！人の事は考えないでもっと心に余裕を持ちなさいよ！」と折々に励ましてくれています。彼女に感謝しています。
それからは、色のハーモニーを少しずつ理解しながら描く様に努め、写生をしていても楽しくなりました。ここまでの十年程の歳月が過ぎました。
良き師・良き友に恵まれて、徐々に「描く楽しさ」と「自分の世界に目ざめる事」が出来て嬉しく思います。これからは心の友と信じて、自分の心の世界を託したいものです。「同人展」も県美で十年前に出させて頂き感動しました。今後とも私のペースで楽しく明るく気持ちで描いてゆこうと思っています。

「絵を描く喜び・見る喜び」木全 文男 (水彩技法)



「椅子」(F8)

私にとって「絵を描く喜び」とは、主に風景を季節感あふれる情景を眺めながら、どの部分を切り取り、どう描いていくか、また、色彩構成を思考する過程で、私のハートの中で色彩の魔女が、その色は合わないとか、弱すぎるとか、明暗が乏しいとか、耳元でささやく声を聞きながら絵筆を進めるのが、唯一の楽しみであります。
また、「絵を見る喜び」で、私の場合は抽象絵画より具象画が中心ですが・・・
静寂感漂う風景画で色彩豊か描かれた作品とか、色面の対比で躍動感あふれる作品の前で色彩の魔力に引き込まれる「ひととき」が唯一の楽しみですね。

「気ままに、スケッチ」野田 幸子 (水彩技法)



「風光る」(P20)

いつの頃からか、旅をする時はスケッチブックを持ち歩いています。
はがきサイズの小さなもので、数本のビグマペンとパステルと共にバッグの中に納まっています。
車窓の景色であったり、足もとの花であったり、ホテルの窓から見える異国の街並み、室内のアンティークな家具・・・新婚旅行でも・・・思いつくままスケッチです。
日常では、子供の成長記録、帰りの遅い家族を待ちながら、食卓の夕飯、ハンガーの室内着・・・そう、夫の術後の痛々しい姿までも・・・
そうした何気ない生活の一部を切り取って四角い画用紙に納める瞬間は、自分の世界を作り出していて、これが楽しい・・・が、一転して展示する作品を手掛けたとなると、作品としてのオリジナリティを意識して、あーでもない、こーでもない、筆がなかなか進まない。これがキ・ビ・シ・イ・ツ・・・。

「絵を見る喜び」小島 まこと (トータク)



「木々」(F50)

私は「ターナー」の絵が好き、何故？自分なりに考える。
見えない物を書く。空気・水、絵の中に自然と自分が溶け込んで行く思いに駆られる不思議。
ターナーの作品には「黄色と黒の対照・輝いている部分は白・その他の白には灰色や金色が散りばめられている。黄色が使われていない赤い、赤がほとんどない黄色は良く鑑賞できる。」と誰かが言っていた。
「雨・蒸気・速度」を最初に見た時、何が描かれているのか理解出来なかったが、時が経つにつれ物の形が見え、汽車が今にも迫ってくる。又車窓の中に居る自分の眼に景色が飛んで行く。蒸気に消される空・景色。本物を見たことがなく残念だが、汽車の前には野兎がいるそうである。何だか怖ささえ感じる。
と、一つの絵でこんな事を考えるのも、私にとって楽しい時間である。

「絵とその他の芸術品を観る喜び」竹内 誠一 (トータク)



「刻」(F50)

今月は何を観たいか。私は東海の展覧会情報「ナゴヤアートニュース」と日経新聞の文化欄より入手し、興味がある、心が動かされそうな展覧会に足をこぶ。大きなテーマ展は主に県美とか名古屋美術館で開催されるので大半は観ているが、時々企画された方々の内容をどれほど鑑賞できたか、疑問が残るケースが多い。時として何となく理解できた時は一瞬なりとも嬉しい気分になる。
公募展は洋画、日本画どちらでも決めた団体を観ている。どちらも私が描いている風景画が主に目に留まる。そして何か自分の絵に参考にならないか、技術的な事、自然感を感じるか、作者のナライは何にか、等観る。
もう一つの切っ掛けは、高島屋と松坂屋画廊の展覧会だ。どちらも個展が多い事で、作者のトークを聞く事が出来たり作者と話が出来る事でその人柄と作品の関連が深まる事が楽しい。至近では第40回記念・十果会、池口史子展、人間国宝・志野茶碗の鈴木 展では握手をしていただいた。柔らかく包み込まれた感触が作品と重なった。

「展覧会の絵＝自分の絵を見る」水谷 賢一 (青い道の会)



「100」(S40)

展覧会に出品した自分の絵。会場の中でその一部を構成する要素となった自分の絵を見る時、如何に客観的に成れるかが重要である。作品として描いた自分の絵は複数の中でどんな存在として展示されているのかを見極める。その絵がどのレベルまで達している？どの部分が良くて？悪いのか？バランスはどうなっているのか？を客観的にかつ総体的に分析する必要がある。「余計な思い入れ」がソレを邪魔すると客観性は失われてゆく。作品制作中には数々の不具合を自ら発見するが、「完成」という段階に近付くと殆んどがクリアになる。
そして、その時点での最高のものが「作品」として出来る。
約一週間の展示期間の意義は、極めて大きい。冷静に自分の絵を見る事を心掛けると、完成したと思われたものの中から更なる問題点を見つけ出し、反省したり、次作への活力を得たりする。それがいい。

関連

展覧会情報

「青い道の会展 2019」 ●出品者一宮地美紀、水巻久美子、井上美代子、吉田洋子、水谷賢一
2019年5月21日(火)～26日(日) 稲沢市荻須記念美術館・一般展示室 I

「それぞれの視点」2人展 ●同人「吉田洋子」と「井上美代子」の過去から現在までの画業を振り返ります。
2019年5月21日(火)～26日(日) 稲沢市荻須記念美術館・一般展示室 II

予告

「青美会 同人展 2019」
2019年6月26日(水)～6月30日(日) 愛知県美術館ギャラリーD室(8階)

「第25回・青美展」 名古屋芸術文化団体活動助成事業
2020年2月25日(火)～3月1日(日) 東桜会館ギャラリー